

教養教育センター・社会学部共同プロジェクト  
「内なる国際化」に対応した人材の育成



徳永智子

慶應義塾大学国際センター特任講師  
専門分野：教育社会学、教育人類学、  
異文化間教育



上田 康仁

愛知教育大学教育学部現代学芸課程  
日本語教育コース准教授  
専門分野：日本語教育学、日本語教育史、  
外国人児童生徒支援



田中宝紀

NPO 法人青少年自立援助センター  
定住外国人子弟支援事業部統括コーディネーター  
専門分野：外国にルーツを持つ子どもと若者の  
学習・就労支援

日 時：2016年10月22日(土)  
13時から17時まで

場 所：明治学院大学 白金校舎2号館2201教室

東京都港区白金台1-2-37 <http://www.meijigakuin.ac.jp/>

## シンポジウム

# 「内なる国際化」を考えるⅡ —外国につながる子どもたちの教育について—



主催：明治学院大学教養教育センター

明治学院大学社会学部

後援：東京都港区

【お問い合わせ先】

明治学院大学教養教育センター

電話：045-863-2067 FAX：045-863-2068

# 「内なる国際化」を考える II

## - 外国につながる子どもたちの教育について -

一時減少傾向にあった在留外国人数は、2013年以降再び増加に転じ、ついに230万人を超えて過去最高となりました（2016年6月末現在）。同様に、外国につながる児童生徒数も増加傾向にあり、2015年5月時点で、公立学校に在籍する外国人児童生徒数は76,282人、私立学校在籍者も合わせると、その数は81,899人にのぼります。

公立学校に在籍する外国人児童生徒のうち、日本語指導が必要とされる数は29,198人で、全体の約4割に相当します。また、これに加えて日本国籍を有しているが日本語指導が必要とされる児童生徒数は7,897人とされており、合わせると約3万7千人の児童生徒が学校での学習において何らかの困難に直面していると考えられます。

さらに、外国につながる子どもたちの中には不就学のケースも多く、学校に通えなかった子どもたちが、社会で大きな困難に直面するであろうことは想像に難くありません。

今回のシンポジウムでは、外国につながる子どもたちの教育について、各分野で研究、実践を重ねている方々から、問題提起をしていただきます。これらの議論を踏まえて、外国につながる子どもたちの教育の現状を知り、今、私たちには何ができるのかを考えていきましょう。

### 【プログラム】

開会の挨拶：永野茂洋（明治学院大学副学長・教養教育センター教授）

趣旨説明：高桑光徳（明治学院大学教養教育センター教授）

第1報告：徳永智子（慶應義塾大学特任講師）

「グローバル社会を生きる移民の子どもエンパワメント：アメリカのNPOの取り組みから」

グローバル化が進展するなかで、世界各国において複数の国・文化・言語を跨いで生きる子どもたちが増加しています。

しばしば学力や言語など教育問題が語られますが、複数の文化のはざまを生きる子どもは多くの可能性を持っており、彼ら、彼女らが持つ力や強さが発揮できる社会をつくることが求められています。アメリカのNPOの取り組みを紹介しつつ、移民の子どもエンパワメントのあり方について考えます。

第2報告：上田崇仁（愛知教育大学准教授）

「『手を洗ったら、女の子からタオルを取りに行つてね』が示した問題」

愛知教育大学では、来年度から「外国人児童生徒教育」にかかわる授業が必修化されます。愛知県の地域的特性から、将来教壇に立つ学生は、必ず何らかの形で外国につながる子供たちの教育に関係することが予想されます。その中で、日本語教育的な視点からどのような教員養成へのアプローチができるのか、試行錯誤を重ねています。

第3報告：田中宝紀（NPO 法人青少年自立援助センター定住外国人子弟支援事業部統括コーディネーター）

「外国につながる子どもたちを支える—多様性が豊かさとなる未来を目指して」

現在、日本で生まれる赤ちゃんの30人に1人が外国人の親を持っています。内なる国際化が進行する一方で、言葉の壁や教育機会格差など、外国につながる子どもたちの教育にはたくさんの課題が残されています。子どもたちの直面する課題に、市民は何をすることができるのか。私たち YSC グローバル・スクールの実践からそのヒントをご紹介します。

<休憩：10分>

討論者：高桑光徳

報告者リプライ 全体討論（司会：浅川達人・明治学院大学社会学部教授）

閉会の挨拶：野沢慎司（明治学院大学副学長・社会学部教授）

